

八太郎北防波堤の復旧事業が 平成24年度土木学会技術賞を受賞しました

八戸港湾・空港整備事務所

平成25年6月14日(金)、ホテルメトロポリタンエドモント(東京都)で開催された土木学会の定時総会において、平成24年度土木学会賞の表彰式がおこなわれ、当事務所の「八太郎北防波堤の復旧(東日本大震災)」事業が技術賞(Ⅱグループ)を受賞しました。

技術賞(Ⅱグループ)とは、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに授与される賞です。



▲表彰状と楯

[受賞理由]

東日本大震災によって八戸港に津波が襲来し、全長3,500mに及ぶ北防波堤の約9割が被災した。このため、外海からの波浪が港内に直接侵入することとなり、荷役出来ない船舶の沖待ちや荷役中に係留ロープが切断される荷役障害が発生した。こうした事態を打開し、地域の産業・経済を回復させるためには、北防波堤の早期復旧が急務であった。

本事業を進めるに当たっては、①施工中も含めた荷役障害の改善、②再度災害の防止(L2津波への対応)、③短期間での復旧という課題に対応する必要があり、そのため、①消波ブロック据付を先行した二段階施工、②粘り強い構造の採用、③調査、設計、施工の同時進行及び大規模急速施工を行った。

本事業により地域の産業・経済の復旧・復興を支えることができただけでなく、被災ケーソンの撤去工法の確立等により、引き続き釜石、大船渡、相馬港の防波堤復旧工事を円滑に進める見通しもついた。また、津波による被災メカニズムの解明と粘り強い構造を導入した成果は「防波堤の耐津波設計ガイドライン(H25.2)」の根幹を成し、今後想定される南海トラフ地震等による津波対策への先駆けとなった。更に、八戸市の津波堆積土砂の54%をケーソン中詰材として有効活用したことにより、市内のガレキ処理も加速され、同市の復興にも貢献できた。

八太郎北防波堤の復旧事業は、今後に通じる防災対策をいち早く具現化した土木技術であり、地域の復興にも貢献したことが評価され、技術賞に値するものとして認められました。

土木学会は、土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄することを旨とし、さまざまな活動を展開しています。土木学会賞は学会創設後6年目の1920(大正9)年に「土木賞」として創設され、伝統に基づく権威ある表彰制度です。

